

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104013		
法人名	株式会社ハッピーパーク		
事業所名	グループホームハッピーパーク夢が丘		
所在地	長崎県長崎市小江原5丁目25-10		
自己評価作成日	平成28年8月30日	評価結果市町村受理日	平成28年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・家族会(オレンジリングの会)との連携を軸に、入居者のケアや行事活動及び企画立案の運営を行っており、自治会の協力のもと、地域活動や地域ボランティアの受け入れ等も積極的に行っています。これから、地域に根ざしたグループホームとして、家族会の支援の中、入居者が地域の一員として、より良い生活が行える事を期待しています。</p> <p>・当事業所は、薬の削減に取り組んでおり、薬での抑圧された生活ではなく、自分らしい普通の生活の中、生き生きとした笑顔に溢れた生活を送られています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>設立者の思いがこもった理念はホームの支援の根幹にあり、入居者や家族、地域に向け具現化の努力がある。ホーム菜園に地域住民の手伝いがあり、保育園児との交流、地域行事への参加、地域ボランティアの協力など地域に溶け込んでいる。職員は日々の会話から聞き取った思いをケアプランに載せ、入居者一人ひとりの「自分らしい普通の生活」の個別ケアとし支援している。又、運営推進会議の家族の参加や年4回の家族会での意見を取り入れた行事は参加者も多く、家族との絆を断ち切らない支援に努めている。管理者は職員のやる気を引き出し、職員を育てる仕組みややり甲斐を持ち働きやすい職場作りを目指し、コミュニケーションやチームワーク構築に取り組んでいる。薬に頼らない取り組みにより認知症の改善がみられ、入居者の穏やかな生活と家族の安心があるホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分らしい普通の生活の実現の為、入居者の声を尊重し、御家族や地域との関わりを大切に、入居者と心から笑い合えるように取り組んでいます。	ホーム理念と経営理念があり、職員会議や新人教育で理念を共有している。職員は入居者の「これまで生きてこられた自分らしい普通の生活」「毎日が笑顔で」を念頭に、入居者一人ひとりと深く関わり、生活歴や人柄を知ること努め、本人本位の支援の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑作業や行事を通して地域との交流を行っています。また、積極的に地域ボランティアの受け入れを行っています。	自治会に加入しており、地域の人が気軽にホームへ立ち寄っている。ホーム内の畑作業やレクリエーションには地域ボランティアの協力がある。また、保育園児との芋ほりや近所への焼き芋配り、地域の夏祭り見学等、入居者と共に地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や御家族への広報誌の配布及び防災訓練への参加のお誘いや、地域奉仕を目的とした企画の実施を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度必ず実施し、推進会員や自治会へ報告書配布行い、会議を通じて地域活動の働き掛けを行う。	2か月毎に実施しており、家族が順番に参加している。会議では入居者状況やホーム内活動、個人別の活動報告が行われて、ホームでどんな生活をしているかを知ってもらう機会となっている。意見交換しながらアドバイスを貰ったり、イベント情報を収集する等サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの交流を積極的に行っており、介護相談員の受け入れも行っている。	行政とは法的な事柄、運営上不明な点を問い合わせしている。包括支援センターから依頼があり、管理者が民生委員に向け認知症の講話やサポーター養成講座の講師を行っている。また、年1回2名の介護相談員の訪問があり、入居者との会話の機会を設けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の参加や全スタッフを対象にした施設内研修などで、全スタッフが認識し実施できている。	内部研修を行っている。職員は、言葉遣いや声の大きさ、支援の方法等拘束の内容について話し合っている。新人教育では、本人が嫌だと思ふことは拘束にあたると伝えている。気になる場面では、管理者がその都度話をし、拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフを対象にした施設内研修の内容に含まれており、日常生活の中で、身体的、精神的な変化に注意を払い、虐待防止についての取り組みは浸透している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフを対象にした施設内研修の内容に含まれており、現在入居者に該当される方がおり、状況に応じて支援させて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、充分説明し納得のもと同意して頂いている。介護保険改定時にも必ず同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事企画に関して、入居者の声を元に立案された企画が多数を占めており、家族会(オレンジリングの会)及び運営推進会議との協議のもと、運営を行っています。	苦情処理や窓口は明文化し、契約時に家族へ説明し同意の署名を貰っている。年4回開催の家族会は、毎回参加も多く意見要望や交流が活発である。また、運営推進会議へ参加を要請し意見箱を設置するなど家族の意見要望の抽出に努めており、運動会の開催や行事の内容など入居者や家族の意見要望を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度行っているスタッフ会議とは別に、施設外での会食を行いスタッフが意見を気軽に出来る環境作りを行っています。	職員は月1回のスタッフ会議や日々の業務の中で、意見要望を出している。管理者は、毎月の食事会や職員だけのレクリエーションなど働きやすい職場作りや話しやすい雰囲気作りを心掛け、チームワークやコミュニケーションの構築に努めている。勤務時間や業務内容の変更など職員意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に応じ、手当を付けている。他には、夜勤業務に対し手厚い手当が受けられている為、やりがいがある環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中堅スタッフが、新人スタッフを指導する事で、自らも業務について知識を付けて行こうと努力する為、お互いが向上出来るような仕組みとなっており、定期会議の際には、自主的に勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会や関連施設での研修や行事に対して積極的に参加を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係作りは、特に注意を払っている。入居者全員が自分らしく生活を送って行けるようスタッフ全員が気を使い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族とは、入居前や面談時にご本人の事について話しを良く聴くようにしています。その際には、御家族と共にご本人を支えて行きたいと思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より、利用していた精神のデイケアを医師の指示のもと継続的に利用を行っている認知症ランクMの入居者がいらっしゃいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームで、入居者の皆様は、私達スタッフにとって目上の人であり、人生の先輩でもあるとの認識のもと、介護させて頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームでは、御家族とスタッフの関係を楽器のトライアングルに例え、底辺を入居者、両サイドを御家族とスタッフとし、底辺である入居者を共に支えて行きたいと思います、家族会と共に関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の御家族、知人など気軽に訪問して頂けるよう、働き掛けを常に行っており、御家族が参加される行事を定期的に行っています。	家族や友人、知人、近所の住民など面会者は多く信者に神父の訪問がある。職員は入居者との日々の会話から生活歴や馴染みの関係を把握し、ラーメン屋や花屋へ入居者と行くなど支援している。入居者のこれまでの生活の継続を、支援の柱の一つとし家族や馴染みの関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、全員リビングで過ごして頂いており、家事やレクレーションを通して、入居者同士やスタッフとのコミュニケーションは普段から多く取れており、関係の支援は良くできていていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や入院の為、退所された方に、スタッフが自主的に会いに行くなど、関係性が継続されており、御家族への連絡や相談などあれば、受付が可能になるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者それぞれに、スタッフが担当として関わりを持つようにしています。その中で、毎日の生活を通じ、その時々のお話の中から自然な形で思いや要望等を把握しています。	職員は、日常的に担当の入居者と会話や1対1の時間を多く持つよう心掛け、思いの把握に努めている。笑顔や発語の少ない入居者に全職員が毎日30分間、パフォーマンスで笑顔や発語を引き出すよう取り組んだ事例がある。聞き取った思いは個人記録や申し送りでも共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの中から、それぞれに合った事や活動などを把握し、その内容に沿ったケアプランの作成に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者それぞれに、スタッフが担当として関わりを持つようにしています。その中で、毎日の生活を通じ、その時々のお話の中から自然な形で心身状態、有する力等の現状の把握を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員が、それぞれの担当者となっており、日々の変化や状況を把握し、スタッフ会議等で、他職員と意見交換を行いモニタリングに反映しています。	職員は担当する入居者と深く関わり、よく知り、本人本位のケアプランとなるようスタッフ会議で話し合っている。入退院時や変化があった場合、必ずアセスメントを取り、モニタリングを行い、現状にあったケアプランを作成している。家族の意見や要望は面会時に聞いており、同意を得て、プランを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの項目は毎日実施されているかチェックしています。その中で、変化が見られた場合は、モニタリングを実施する際に活用し、スタッフ会議等を通して、職員間で共有するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の方にとって、現状では対応できない場面やニーズが発生する事があります。その際は、その現状に合わせた対応への柔軟な支援は常に考えて行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの農園を利用し、地域の方々と共同作業やイベント(夏祭りなど)の積極的参加を行っており、自治会や地域施設(保育園など)と共同での企画行事を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関とは良好な関係で、適切な医療を受けている。	これまでのかかりつけ医を継続しており、往診のない医療機関の場合は変更を勧めている。歯科往診があり、無料診断も利用している。定期受診には家族が付き添い、受診結果の報告を受け、職員は申し送りノート等に記録し共有している。急変時には協力医との連携もとれており、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切に連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、定期的に連絡を取り合いながら早期退院に向けた情報交換や関係作りはできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取り支援は行っておらず、事業所でできる事を入居の際に十分に説明を行い納得して頂き入所して頂いています。	ホームでは終末期の支援体制が整っていない為、現在、看取り支援は行っていない。状況に応じて、都度家族と話し合い、できる限りの支援を行っている。しかし、利用契約書内の看取りの指針についての記載内容とホームの現状との整合性がとれていない。	ホームの現状、方針を明文化し、家族等に表明することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部のスタッフは訓練を受けていますが、その時々入居者の状況を踏まえ管理者が応急手当や対応の方法などの指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	夜間帯での総合訓練を毎月第3水曜日を防災の日として行っています。災害の際の地域ボランティアなど地域と協力体制を図っており、地域の消防団が近くにあります。	毎月第3水曜を防災の日に設定し、消防訓練を実施している。通報・初期消火・避難誘導等の訓練には、地域ボランティアの協力があり、役割分担を明確にしている。実施記録から反省点を次回訓練に活かしていることが確認できた。ハザードマップと自然災害マニュアルを作成しているが、訓練はこれからである。	自然災害は、いつどのようなことが起こるか分からない為、いざという時に慌てず確実に避難誘導できるよう、状況を想定した訓練実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当事業所のサービスの基本姿勢を掲げオリエンテーション時に必ず守ってもらう事項として、スタッフ全員に周知しています。	個人情報の取り扱いは家族へ説明し、同意の署名を得ており、職員は守秘義務の誓約書を提出している。ボランティアにも守秘義務を説明している。さらに内部研修を実施し、新人にはオリエンテーションに組み込み周知を図っている。排泄誘導や入浴介助など尊厳を損なわない支援に努めている。ただし、全居室のドアが日中開いている。	入居者は、日中は1階リビングで過ごす。家族の訪問時などは居室で話す事があるため、他利用者の居室の見えないようプライバシー保護への取組みが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常時、この事に対しては、耳を傾けています。希望・要望が自然と出てくるような働きかけは実践出来ています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記と同じで、希望・要望は常に見つける努力を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の生活の中で、着る服や化粧品など入居者のこれまでの生活を維持できるよう支援しています。好きな事を行えるように積極的に応援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー等は、入居者の皆様と話し合いながら決めていきます。また、調理の際は、入居者の皆様ができる事に参加して頂いています。	献立は職員が入居者の希望を取り入れ作成し、入居者の嗜好に合わせ、食べ易い形状で提供している。入居者は職員と一緒に調理したり、味見や後片付けなど出来る部分を手伝っている。そのほか、外食に出掛けたり、出前を取るなど希望に沿っており、時候の良い時は弁当を持って出掛け、焼き芋を楽しんだりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量を毎日チェックし、変化があった場合は、主治医に相談を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、ケアプランの日課表にも実施計画を立てています。個々の口腔内の状態に合わせた口腔ケアは、毎食時後実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、それをもとに排泄パターンを把握しており、オムツ使用者も必ずトイレ誘導を行っています。	職員は排泄の自立支援を理解し、排泄チェック表を付け、入居者の排泄リズムを把握し共有している。夜間も誘導し、トイレでの座位排泄を支援している。現在、居室でのポータブルトイレ使用者はなく、全員、座位排泄である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し便秘状態を小まめに管理しており、毎日の運動量や水分量に気を配り便秘の予防に繋がっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各入居者の皆様には週2回をベースに曜日を決めていますが、その日の状態や状況に応じて臨機応変に対応しています。	入浴は曜日を定め週2、3回を基本としており、入居者の気分や体調、希望に合わせて対応している。柚子湯や菖蒲湯で季節を感じ、水仙の花を浴室に飾って香りを楽しんだり、湯ぶねにゆっくり浸かるなどリラックスできるよう工夫している。また、職員と1対1で会話できるため、入浴は入居者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	人間本来昼間は覚醒し、夜は睡眠をとる事が自然であり、極力昼間の時間帯はリビングで、退屈しない様、工夫しながら過ごして頂くことで、昼夜のバランスがとても良い状態が継続できています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に注意し、服薬間違いのないようダブルチェック対応を行っています。特に認知症の薬・睡眠薬等、身体機能に著しく支障をきたす薬に対しては主治医と相談しながら徐々に減らすなど対策を講じております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの趣味や嗜好に合わせた個別な対応をさせて頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に対しては積極的に対応させて頂いております。スタッフの人員配置も基準より多く配置しており、その日の外出希望にも即応できる体制ができています。	ランタン祭りやおくunchなどのイベントやツツジ・花菖蒲・新緑を眺めるなど計画を立て、季節のドライブに出掛けている。入居者のその日の気分に沿って花屋へ行ったり、チラシを見てスーパーの特売へ行くなど個別に対応している。又、入居者毎の行きたい場所を年間計画にし、積極的に個別の外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理可能な方には、お金所持の制限はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人や御家族の希望があれば、電話や手紙のやり取りは大いに歓迎しています。手紙のやり取りに関してはスタッフの支援を受けながら実際に行った事もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の一般的な建物なので、お年寄りにとっては不十分な空間ではないと思います。	リビングはオープンキッチンで職員と入居者が食事の準備をする会話や匂いが漂い、五感を刺激している。テーブル・ソファ・マッサージチェア等を配し、入居者はお気に入りの場所で思い思いに過ごしている。毎月の目標を貼り、生活意欲を高めたり、季節を感じられるよう飾り付けている。感染症対策に努め、掃除は職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をするテーブルとくつろげる空間ソファは別々の場所としていますので、自分の気にいった場所で思い思いくつろいでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の大きなものを除けば、持ち込みは基本的に自由です。入居者の居室が、御本人にとって居心地の良い空間なのかを継続的に確認を行い向上していけるように考えています。	担当職員が製作した表札が居室の目印となっており、各居室には使い慣れた小物や家具、写真、似顔絵等を入居者が生活しやすいよう配置している。また、マリア像や十字架が持ち込まれている。毎朝、職員が入居者と一緒に掃除と換気を行い、快適に過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングに、入居者全員氏名、生年月日をポスターにして貼り、自分の存在がいつでもわかるよう工夫している。また、リビングに掲示板を設置しており、季節や行事を感じて頂けるような内容を掲示しています。		